

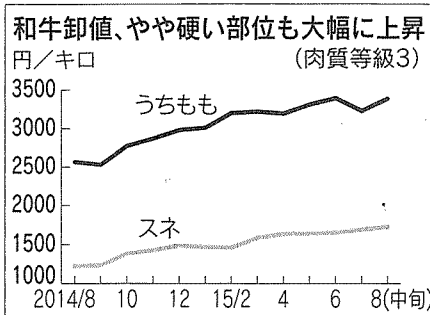
和牛モモ・スネ肉 大幅高

卸値3~4割、牛不足が影響

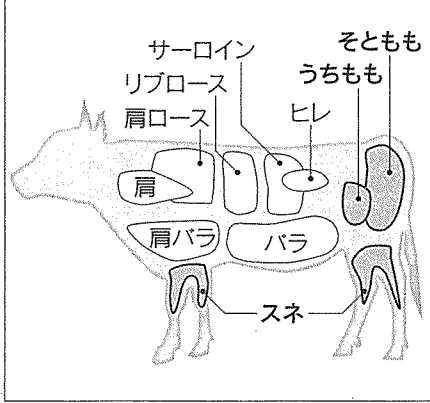
和牛の卸価格が大幅に上昇している。相対的にやや硬い部位の値上がりが目立ち、モモやスネがここ1年で3~4割高となった。全国で牛が不足しており、高級なロインやヒレだけでなく全般的に品薄感が出てきた。スーパーで低価格な部位ほど扱いやすいため、モモやスネに人気が集まった面もある。

特売向け、店頭で引き合い

日本食肉流通センター 値はモモ(うちもも)が1キログラム3300円台後半と1年前と比べて3割高い。モモはほとんどがスライスされ、「切り落とし」や「こま切れ」の表示で肉じゃがやカレーなど様々な用途



牛肉の主な部位



▼和牛の部位 地域によって呼び名や分け方はやや異なるが、13程度の部位がある。肩のほうにあるロイン(リブローズ)やサーロインやヒレが主にステーキに使う高級品で、焼肉のカルビはバラ肉を使う。スーパーでは脚のほうのモモやスネが多い。

向けて売られている。主に煮込み料理に使うスネ肉はさらに上昇している。同4割高の1700円台となった。シチューや赤ワイン煮込みなど、料理に少し手間をかけるないといけないが人気があるという。半面、ロインは同1割高の5800円台と、値上がり率ではモモやスネのほうが高

い。すでに十分に高い部位は値上げに限界があるので、他の部位に波及している。価格が上がるのは和牛が足りないからだ。繁殖農家が高齢化によって廃業し、子牛の取引価格は最高値圏で推移。成牛になった和牛をと畜した頭数は4~6月期が前年同期比5%減の11万6千頭にとどまった。

イトコンパニオンの植村光一郎(常務) 食品スーパーの三徳は都内の複数店で、飛騨牛の切り落とし(モモ)を100ギラ680円(28日限り)で売るほか、ライフも都内の店舗で和牛スネ肉を同298円で販売する。 店頭の価格上昇は卸値に比べると緩やかなの

ナフサ、アジアで一段安

スポット6年8カ月ぶり水準

石油化学製品の基礎原料となるナフサ(粗製方ソリン)の東アジア価格が一段と下落した。スポット(随時契約)価格は1ト373ドル前後と約6年8カ月ぶりの安値をつけた。原油価格が下落し

たうえ、中国の景気減速によりナフサ需要も盛り上がりを欠く。 スポット価格は原油が小幅に値上がりした5月に1ト600ドル前後まで上昇した後、下落が続く。製油所の定期修理が終わり

縮んだ。 スポット価格は合成樹脂の値決め指標となる国産ナフサ価格に遅れて反映される。国産ナフサ価格は4~6月が1キログラム4万8800円と1~3月期比1800円上がった。7~9月期は4万7

の価格差は1トあたり50ドル程度と、5月の半分に縮んだ。 スポット価格は合成樹脂の値決め指標となる

安が波及する10~12月は「3万5000円程度にまで落ち込む」(石油取引仲介のアメックス・エナジー・コム)との見方もある。

ナフサの先安観が広がり合成樹脂の下げ圧力が強まっている。樹脂各社が7月に打ち出したポリエチレンとポリプロピレ

ンの値上げ交渉は難航中だ。需要家からは「むしろ、値下げすべきだ」(樹脂フィルム大手)との声が出てきた。

綿花、安値圏が続く

中国の需要鈍化観測で 国際価格

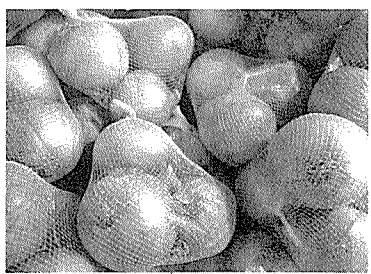
衣料品に使う綿花の国際価格が安値圏で推移している。指標のニューヨーク市場の先物価格(期景に織維需要が鈍るとの

近)は26日、1ギラ(約4万53ギラ)あたり62ギラ台だ。中国の株価が大幅に下落して以降、経済減速を背景に織維需要が鈍るとの

見方から値下がりしていた。その後、相場はやや

タマネギ 高値ようや

春から続いたタマネギの高値が一服した。東京・大田市場で、



西日本産は雨不足で出荷が減っていた。 北海道は「8月の出荷量が3割多く年を上回

生鮮 クリック

記録メディアとして磁気テープが注目されてい

富士フィルムのコンピ ューター用磁気テープ

と

速度

△

○

◎



大を

用頻度の低いデータを、導入や運用にかかる シタル資産として半永久 コストは約3分の1に低